

町民の皆さま、新年明けましておめでとうございます。

令和：初めてののお正月をお元氣でお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、台風19号災害等で、中部・関東・東北の広い範囲にわたって、大きな災害に見舞われました。町民の皆さまの中にも、ご家族・ご親戚・親しいご友人等が被災されている方も数多くいらっしゃるのではないかと拝察し、心からお見舞いを申し上げます。

その被災地域には、一昨年の西日本豪雨災害の折、鬼北町に50万円を超えるご寄附をいただいた宮城県白石市も大きな被害が発生しました。白石市は、仙台伊達藩時代から「白石和紙」として、優れた技術を伝統として発展してきた地域であります。同市と鬼北町が、伊達藩領地内であるご縁で、同市の民間団体「蔵富人」のご配慮により、鬼北町「泉貨紙」の原材料となる大変貴重な「トラフコウゾ」の株分けをしていただいたところで

す。

昨年10月の白石市の災害発生直後から、鬼北町内において同市への募金活動を進めてまいりましたが、総額50万円を超える募金が集まりました。この中には、小中学校児童生徒の皆さんをはじめ、各種職

場、各種団体、自治組織、中には、公民館へ杖をついて来られ、募金をしていただいたおじいちゃんもいらつしやいます。本当にありがたく、1月中旬に白石市長にお渡しすることをお約束いたします。ご賛同いただきました皆さまに、心より感謝申し上げます。

さて、鬼北町では、現在その一昨年の災害について、懸命な復旧事業を実施しておりますが、単独・補助災害合計349カ所という空前の被害箇所数に至っており、施工業者のマンパワー不足という状況も発生しております。このような状況ではあります。引き続き関係機関や地元業者のご理解とご協力、そして、国・県のご指導をいただきながら、しっかりと作業を進めてまいります。

町長就任3年目となった昨年は、災害以外にも交通弱者対策や子育て支援施策、運転免許自主返納支援施策を実施してまいりましたが、新たに検討すべき案件が浮かび上がってきました。それは、「予土線維持継続および近永駅周辺のまちづくり」、「ジビエ利用推進事業」、「森林間伐事業」、「子育て支援追加施策」、「北宇和病院の維持継続」、「教育環境の再構築」などです。いずれも、短期間での問題解決につながる案件は少ないと思いますが、最大の効

果が発揮できるように地に足をつけて、諸施策に取り組んでまいりたいと考えております。

もう一つ現在推進しておりますのが、町内における持続可能な企業・団体の維持と、新たな雇用・後継者の発掘であります。多業種において雇用する人材が不足している状況が発生しております。これは、企業の経営規模拡大を困難にしているだけにとどまらず、平常の企業活動およびその企業存続の可否にも影響が及んできているのではないかと危惧をしております。この状況は、商工業だけでなく農林業においてもその通りです。したがって、行政側として、企業誘致の推進だけでなく、現在町内にある企業・農林業団体等の足腰をしっかりとするお手伝いも必要ではないかと考えます。その一つとして、労働者雇用支援・業務上必要な資格取得支援施策を開始するとともに、再度あらゆる角度から支援できないか検討を進めておりますので、皆さまのご理解・ご協力をお願い申し上げます。

結びになりますが、令和2年が皆さまにとりまして輝かしい一年になりますよう、心からご祈念申し上げます、新年のごあいさつとさせていただきます。

鬼北町長
兵頭 誠亀

あいさつ

かな我がふるさとに